

おうちの方へ

小 / 算数 / 1年 / 数と計算 /  
おうちの方へ / 理解シート

いくつといくつで、絵ではわかるのですが、  
数字だとわからないのですが



数の意味を、はっきり理解していないためです。  
数のイメージをきちんと形成できるようにしましょう。

1

具体的なものから、おはじきやブロックのようなもの、数字へと学習を広げます。

入門期の数の学習は、描かれた具体的なものの個数、おはじきや●、ブロックのようなものの個数、そして、数字へと広げられていきます。

数を、具体的なものの集まりから数字のような抽象的な記号の取り扱いへと拡張しているのです。

「数はどのようなものなのか」「その数を数字に置きかえるとどうなるのか」などのイメージが、1年生の頭の中に、はっきりと形成されていないと、絵では問題が解けるのに数字になるとわからなくなってしまうことが起きます。

無理やり、「5は、4と1」「5は、2と3」といったことをマル覚えさせると、いつまでも、数はどのようなものであるのかが身につきません。

2

一段階戻って、1から10の数は、どのようなものかを学習しましょう。

算数の教科書の「10までのかず」の単元では、1から10までの数を、ものの集まりという視点で展開しています。

「具体的なもの」から、「おはじきや、ブロックのようなもの、●」、「数字」へと、数の考え方が拡張されています。

教科書だけでなく、家庭生活の場にも、数のイメージを形成する素材は、たくさんあります。お皿や、さじ、コップ、さいころ、おはじきなどを使って、数遊びなどを通して、数の意味を体感させるようにしましょう。

そして、ものの集まりの個数と数字がしっかり結びつくようになると、「いくつといくつの数字の問題」も、理解できるようになります。